

# 令和5年度 ヘルパーステーションわこう事業報告書

## < 事業報告 >

平成18年10月1日、訪問介護事業所開設。入所者の高齢化・介護度重度化が進み、ヘルパー支援の必要性が年々高まっている。

当事業所の基本方針である、利用者一人一人のニーズにあったサービスが提供ができるよう、訪問介護員の意識統一を図り、個々の介護技術や意識を高め園内研修会等を実施して、利用者の方が安心して生活ができるよう支援をしている。

パートヘルパーを採用し、利用者のニーズに対応している。

また、ヘルパーの技術・資質の向上として園内研修を行うとともに、臨床心理士の先生との勉強会を月1回実施。感染症の流行等の理由のため、開催を中止する月もあった。手技技術のみならず、サービス利用者をより客観的に理解する技術と、自分の心の在り方やチームワーク、コミュニケーションについて学び、よりよいサービスにつなげている。

## < 園内研修 >

| 月 日   | 研修名                            | 参加者    | 講 師       |
|-------|--------------------------------|--------|-----------|
| 4 25  | 座位の姿勢からの立ち上がり介助技法              | ヘルパー全員 | サービス提供責任者 |
| 4 25  | パーソナリティ障害の原因を探る                | ヘルパー全員 | 斎藤 渉先生    |
| 5 25  | 介護でのコミュニケーションの必要性・種類・上手に取るポイント | ヘルパー全員 | 主任生活相談員   |
| 6 23  | 身体拘束は本当に必要か                    | ヘルパー全員 | 主任生活相談員   |
| 6 29  | コミュニケーション技法 無言ゲーム              | ヘルパー全員 | 斎藤 渉先生    |
| 7 25  | スピーチロックとは                      | ヘルパー全員 | 主任生活相談員   |
| 7 31  | 身体を動かしてチームコミュニケーション            | ヘルパー全員 | 斎藤 渉先生    |
| 8 25  | 事例研究 肺がんを患う利用者理解               | ヘルパー全員 | 主任生活相談員   |
| 9 25  | VRによる認知症体験                     | ヘルパー全員 | ヘルパー職員    |
| 9 27  | コミュニケーション技法                    | ヘルパー全員 | 斎藤 渉先生    |
| 10 23 | リラックス技法                        | ヘルパー全員 | 斎藤 渉先生    |
| 11 24 | 身体拘束                           | ヘルパー全員 | 主任生活相談員   |
| 12 22 | ゲームを通して自分と向き合う                 | ヘルパー全員 | 斎藤 渉先生    |
| 12 25 | 介護施設で多い転倒事故 原因と対策              | ヘルパー全員 | 主任生活相談員   |

※1月…日の出・大空棟の給湯工事、2月…中電工事、3月…避難訓練のため実施出来ず。

< 介護サービス利用者介護度状況 > 令和6年3月31日現在

| 性別 | 介護度5 | 介護度4 | 介護度3 | 介護度2 | 介護度1 | 要支援2 | 計(人) |
|----|------|------|------|------|------|------|------|
| 男  | 1    | 0    | 1    | 1    | 2    | 0    | 5    |
| 女  | 1    | 2    | 5    | 8    | 4    | 0    | 20   |
| 合計 | 2    | 2    | 6    | 9    | 6    | 0    | 25   |